

---

# 食人鬼の魔法生活

放浪の焼きそば売り

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

食人鬼の魔法生活

### 【NZコード】

N9595X

### 【作者名】

放浪の焼きそば売り

### 【あらすじ】

主人公が食人鬼になって全力でギャグ（？）をする、そんなお話を読み専の厨房が書く小説なのでくおりていは低いです  
妄想が続くかぎりこの小説は早くて一日、遅くて一週間のスピードで更新いたします。  
ユーザー以外の人からも感想を受け付けるように設定いたしました。

## プロローグ（前書き）

小説初心者です、よろしくお願い致します

## プロローグ

「お前死んだから  
は？」

突然なに言つてくれやがりますかこの屋台に居そな兄ちゃんは  
つて、チエーンソー持つてゐるし。危なつ

「お前は死んだ。これは紛れもない事実だ」

「嘘だと言つてバーニイ」

「キメエ」

ノリ悪いなーこの兄ちゃん。友人できんぞ、彼女できんぞ？

「友人ならゼウスとハデス、アスモデウスがいるが。後妻子いるぞ  
なん……だと……！？」

その若さで妻子持ちだと……！？

「いや、俺75億歳」

ウソダ一

「神っぽいなにかだからな、私は不老不死なんだ。実際はコグドラ  
シルの管理人だが」

か、神……だと……チエーンソー持つてゐる癖に……

「ああ、神っぽいなんかだ。それより自分の状態を確認しないのか  
？」

状態の確認……？ぬおつ！？スケてる！？いやんえつこ「キメエ  
（？ ？、）

「自分が死んで靈体、つまり魂だけの存在にやつと氣づいたか。で、  
唐突だがお前には転生とやらをしてもらひ」

えー……めんどう強制参加だ」チッ

「あーつとテングプラ？「テングプレ」そうテングプレ、そのテングプレ  
とやら的に特典がつく、感謝はしなくてもどうでもいい  
特典ねえ……転生自体興味ないし死んだら死んだで“ハイ、終わり  
”だし。なーにも願いが……あ

「俺の元いた世界の家族に幸せをやつてくれ」

「まだ叶えられる数を言つていないので……まあいい、それは入  
れないでおここう。ああ、それと叶えられる数は5つだ」  
びつみょーな数だなー、んー……よし、1つめ決まり

「ありとあらゆるモノを喰らう能力をくれ」

「トリコに行つたら途中で自分が狙われそうな能力を選んだな。鳥  
を食べば鳥に変化できるようになり、犬を食べば犬に変化。ふむ、  
魔力喰らいも入れておくか。あと魔力喰らいも」

「その魔力喰らいと魔力喰らいってどんな能力なんだ?」

「ズバツと言つと喰つた相手の魔力、魔力を自分のものにできる能力  
だ。喰つたやつにのつとられはしないぞ。たとえアンリ? マユ喰つ  
たとしても」

「すげえ……チートじやねえか……

「さて、あと4つ残つてるぞ?」

「うん、2つ目と3つ目、4つ目はこれだな

「家事、俊敏、殺氣&amp;魔配遮断、それぞれA++ぐださい  
「それ、別に一つでいいんだが「もつとチートになれと?」ふむ、  
ならばいいか。で、最後の願いは何だ?」

ふつふつふつ最後の願いはー!

「銀髪褐色美女にしてください」

「は?……そうか男のお前が女にか……くく……くくははははは  
は……」

〇へ……なんか危なつかしねえ……

「ふふふ……すまない、少々無様なものを見せたな。ではお前の願  
い、叶えよう」

おおーなんか力が湧いてきたー……ん? ちょいまて

「俺の死因と行く世界は?」

「死因か? それはお前がトイレに入つたその時にお前の友人の山田  
君がジャンプ見ながら「アツカリーン」と咳き不幸にもお前の頭に  
電球が突き刺さり苦しみながら脳が焼け死んだ。これが死因だ」

山田アアアアア！何故ジャンプでアッカリーンって言つたアアアアア！  
ジャンプ関係ねえじやねえか！

「それと行く世界だがヒントだけだしてやるつ、『百年戦争』『造物主』『自称正義の魔法使い』これだけ言えればわかるだろ？」「うわつほいネギまでいすか

「ああ、聞いたらさつさ行け。テンプレで穴を開けておいた。そこに身投げすれば一名様ご案内とやらだ」「いよいよか、オラわつくわくしてきたぞ  
行くぞ世界よ、食材の貯蔵は十分か？

「ルパーンダーライブ！」

ヌポン

.....

「これでよかつたのか……？あ、俺の分霊が魔帆良で焼きそば屋台売つてるの言ひ忘れていた…まあ、いいか」

プロローグ（後書き）

訂正しました

## 第一話「もう少し、なりば戦争だ」（前書き）

小説読む以外家でやることがない。  
宿題？知らんなあ……

## 第1話「よりじい、ならば戦争だ」

やあ、主人公だよ現在名前はフェンリルって名乗っている。なぜフェンリルかと「オオカミ」の娘だからだ。神GJ、いい仕事した。あとどうやら獣になつたり、人に戻つたりできるらしい（犬耳と尻尾は消えんが）

獣モードか……ザ？ ビースト！ できるな。さて、転生したと言つても介入する気はないから“ダイオラマ魔法球”がここにないという事実”を喰つてダイオラマ魔法球を出現させる。便利だな……あれ、なんか満腹感が？ 鳴呼、成る程喰つたから満たされたか。次喰う時は胃の許容量が少ないという事実を喰つか。なんて考えながら私（私に変えた）は安全な場所でダイオラマ魔法球を使う為に移動を開始した。

キングクリムゾン！

ヒヤッハー、エベレストの頂上についたぜーつか寒ッ！ あ、そいや来る途中にトカゲやらイルカやら犬やら猫やら植物やらを放り込んだがどうなつてるかな？ 設定はこいつの1時間＝向こうの一年だし。さあ、雪で固定しいざ修行なり！

あるえ、俊敏A++で数十時間しかかからなかつた筈なんだけど……このモハ臭はなんだ。クシャダオラいつぞ、やべえ喰いてえつわけで

「イタダキまス」

結果、惨敗しましたよ。やっぱ最初はブルフンゴか、とか考えていたら

「フゴツフゴ……」

スファンゴか……よし、今度は武器作つたし今夜は牡丹鍋じゃー！

「こんどこそいただきます！」

うめえ、ドスファ ゴうめえ。あと自分のナイフ捌きに吃驚。自分（人間形態）の倍ある巨大をものの数十秒で捌いたよ。家事A++すげえ。これなら嫁さんに行つても大丈夫だね……………自分で

ガサツ

ああ?なんだ、私は今機嫌が悪いんだよ。ビーストモードでD  
ィールドをつつきつてユニバースすつぞフオルア

……今のはただの電流が とりあえず面倒なので首をひねり。回して音のした方を見ると。そこには一匹の小さな狼がいた

## 第一話「よりっこ、なりば戦争だ」（後書き）

まだまだ原作にからみません後短い  
ぐぬおおおおお  
修正しました  
狐じやなくて狼だつたあああああ

## 第2話 雷狼出現（前書き）

ジンオウガの子供登場です。ヒヤツハイ  
モンハン小説化してきやがつた……  
早くネギま分をださなければつ

ジンオウガ side

まずいまずいまずい…………本当にこの状況はまずい。自分が相手を痺れさせるのを出せるからといって猪を狩りうつと思い猪のいるところに来てみたけど…………見た事のないヤツが硬そうな細長い石（武器）で猪の長を圧倒していた…………逃げなきや…………大人になつたら対処できるかもしれないけどまだ子供の僕には無理だ…………それにアイツからでている威圧感（苛立ち）…………アイツは強い！僕は簡単にやられてしまう！そう考えていた時、アイツの姿が田の前にあつた

ジンオウガ side end

フエンリル side

おおう…………この子はジンオウガちゃんじゃないか…………ドズビまりだと思つていたがサードがでるとは…………しかし何故なぜなぜこの子は怯えてるんだ……？

まあいいか、餌付けすりや懐くだろ

そう思い私はジンオウガ（幼体）に肉を持つて近づいた。

フエンリル side end

ジンオウガ side

アイツが田の前にいる。アイツが体の一部を向けてくる、もうダメだ。そう思つた。だけきたのは頭を触られる感触だつた。

？？？ これに何の意味があるんだ？でもこうされているとなんだか気持ち良い……

ジンオウガ side end

フエンリル side

あらま、この子田え細めちやつて……かわいいじやねえかッ！  
尻尾もブンブン振つて……やべえお持ち帰りしたい……ずっとなでなでしているとジンオウガがハツ！（。A。）とした表情を

して後ろに飛びのいた。

グルグル唸つているが肉を背中からチラつかせると尻尾をパタパタさせている……ふつ……食事の後は修行しようと思つたが……予定変更！このジンオウガの人に変化できないという事実を喰つてやる！！

……喰い過ぎで腹痛くなりそうだな

フェンリル side end

side out

フェンリルは肉を地面に置きジンオウガをじつにぐるよつに誘つた。だが警戒しているためチラツと肉を見て尻尾を振るがフェンリルを見てまた唸つてしまつ。

フェンリルはしょーがないと呴き、ジンオウガの人になれないという事実を喰らつた。

ジンオウガ side

アイツが何か喋つて立ち上がり、口を開けて閉じたと思ったら。自分の体が変わつていた。びりびりするのは相変わらずだせるけど、後ろ足が異常に伸びていて、バランスがとりづらい。

アイツは目を細めて笑つていた。

「後ろ足で歩けるよ」

アイツが言つた言葉を理解できた。何で？考えているとアイツが僕の体を抱きしめていた。

ジンオウガ side end

フェンリル side

わーかわいい。しかも男の子なんだー。（人格が完全に女性化したフェンリル

ぐふふ……シヨタデリシャス……じゅるり。そう思つていたらあの子の肩が揺れた。手足をふるふるさせてる……。

「後ろ足で歩けるよ」思わずアドバイスしてしまつた。だがジンオウガはキヨトンとして動かなかつた。私は我慢出来ずジンオウガを抱きしめた。

いただきます。

フェンリル side end

ジンオウガ side

アイツに抱きしめられて数秒経つたと思つたらアイツの鼻息が荒くなり僕は地面に押し倒された。え、ちょ何この状況。さつきから知識として頭に入ってるけど分からぬ言葉がいっぱい出てくる。現実逃避をしているとアイツの顔が近づき、僕の唇とアイツの唇がくつついた。その後のこと覚えてない。

ジンオウガ side end

## 第2話 雷狼出現（後書き）

今回も短いです。ネギまは一体いつになつたらでてくるんだ……

### 第3話 雷狼が仲間になつた（前書き）

主人公は変態ショタコンだったという事実。大人になつたらどうす  
んでしょうかね。そんなことより胃が焼けつくように痛いです

### 第3話 雷狼が仲間になつた

ジンオウガの子供襲つた後、フーンリルは悩んでいた。  
「（本能にまかせてやつちやつた…………。）の」ジーピー・ショウ、……。

（）

隣を見るとジンオウガ（子供）はすやすやと寝ている

「（ああもう可愛いな）」

そう思いジンオウガ（子供）の首に顔を近づけて、首筋を舐める。  
するとくすぐつたかったのかジンオウガ（子供）は体を一瞬震わせ、  
目を開けた。両手を伸ばしあぐびをしている。

数秒してこちらに気づいたのか警戒するがその警戒は一瞬で消えた。

「おはよ！」

返事にしばりくかかつたがそこは気にしない。

「どうして一人でいたの？」

フーンリルが問いかけた。

「……親とはぐれた。」

「そう、なら一緒にくる？」

「…………」

「…………うーん」

さて、ビースト。

……あ、ちょっとちやつてみようかな

「そういえば昨日の夜は激しかつたな～」

「…………？」

「私の方から襲つたのに主導権とられちやつたよ～」

「…………／＼／＼／＼」

「おかげで壊れちゃいそつだつたな～？」

「…………／＼／＼／＼」

ジンオウガ（子供）が涙目になつてこちらを睨んでくるが、身長が

足りないため上田遣いになる。

「（可愛いなあもつ！）責任とつてくれないかな～？」

「……………く

「ん～？」

「行く…………ついて行く…………」

「よし、じゃあ行こう。まずは服を着て準備しよう」とここで君の

名前は？

「名前、ない

「…………そつかじやあつけであげる。今日から君の名前は…………

今日からお前は富士山だ！！

「（…………なんか変な電波が。うーんでも名前ビックリよ。ジンジや普通過ぎるしライでもなあ…………。よし、決めた。）君の名前はスレイル。神話でフェンリルを拘束したスレイブルの内、數文字をつかわせてもらったよ。」

「スレイル…………」

「や、スレイル。君の名前。や、準備しようか

「…………うん！」

「キングクリムゾン！――！」

「よーし、準備出来たし、外にでて魔法世界に行くぞ――！」

「まほうせかい？」

「そ、魔法世界。今は確か戦争中だけど魔法を覚えといこた方がいいからね。」

「ふーん…………」

「あ、いざこかん「魔法世界（ムンドゥス？マギクス）」へ――」

「おー…………」

### 第3話 雷狼が仲間になつた（後書き）

ああ、相變わらず短い。

次でなきつちよがでてきます。フェンリルはゼクトやタカミチをみてどうなるんでしょうか（笑）

## 第4話 紅き翼との接觸（前書き）

テストH……………20点とつちました……………  
今回も妄想と集中力が続くまで書き続けます。

ナギ side

よう！俺の名前はナギ？スプリングフィールドってんだ！まだ14  
ぐれーだが魔力量はピカ一だぜ！

「ナギだから変な電波でも受信したんだろう」

「うつせーぞ詠春！」

「フフ、確かにそうですね」

「てめえ、うるさいな！」

「敵襲か！？」

悲鳴？のようなものあげたタカニチの方を見るとそこにはタカニチを胸に押し付けて頬擦りをする銀色の髪の犬耳ねーちゃんがいた

フュール Side

んむ？なぜフュンリルからフュールに変わったか気になる？

れ  
た  
ん  
だ  
よ  
！

ああもう可愛いなー スレイルはー……むッ！？シミタレーターに反応！？

うへへく……こうしちやいられない、ショタが私を待つている！！

卷之三

過程は消し飛び結果だけが残る！

いたはいたがなんのあのメンバー。筋肉ダルマに侍っぽいの  
にスーツ着たおっさんに14~6ぐらいの小僧。そして我らが崇め

るショタ一人。

うわあ……混沌カオスだ……だが！私はカオスメンバーにつっこむといつ苦行をやつてのけよう！私がそこにいる理由ーそこにはショタがいるからだ！

気配を完全に消し目標をセンターに合わせてシユバツ！！今の私は獲物シヨタを狩るハンター（変態）！今の私に不可能はない！！

まずは一人目じやああああ！！

「…………さんもうちょっと静かにした方が…………みぎゅッ！？」

「敵襲か！？」

side out

スレイル side

フェール足速い…………全力をだせば追いつけるけど…………

見失つちゃつたけど匂いで搜せばいいや…………ん、こっちだ…………

ようやくフェールを見つけたと思つたら僕じやない別の子に頬擦りしていた。

むう…………

side out

「むう…………」

その言葉で全員我に返つた。いや、一人を除いて全員我に返つた。

その一人は言わずもがなフェールである。

「おい、てめータカミチになにしてやがる！」

「そうだぜ嬢ちゃん、離した方がいいぜ。それと坊主、俺と代われ「やつて」いるのは抱きつき攻撃、それと筋肉ダルマには抱きつきたくない」

そりや残念、とラカンが言つてはいるがそこまで残念そうではない。

「あああ、あのツーは、離してください！」

「焦るといつも可愛いー…………ん？」

「…………」

ガシイツ！

「おやか回志しゆべゆとせ」

「そうね、対象が違えど紳士と淑女同士仲良くしましょう」

「フフフフフ……」

うふふふふふ

警戒度そつちのけで「年若い子供達を愛でる会」がここに設立された  
くいくい、ヒューリの服の裾を引っ張るものがいる。スレイルだ。  
「ん、どうしたのスレイル」

構つて

ながていニ破壊力一  
テノモ既見一ノハ

「チツ、元気なガキねー潰してもいいかしら同志よ

「これでも私達のリーダーですので潰さないでください。それと私

「うん、うん。だから、おまえのことは、もう、うるさい。」

でも殴るわ」

「分かりました同志フエンリル」

「無視すんじゃねええええええ！」

「（すでし）だせ」

「おめー、うらなんでそんな仲いいんだよ。」

「慈悲たかに（ひすかに）」

置して、「おじやの」

それでね……」

卷之三

## 第4話 紅き翼との接觸（後書き）

やつとナギ達出せた……更新遅くなつたのは夜中書いてたら寝てしまつ起きていた時にはd sの充電が切れていてやる気がでなかつたからです。ちょ、石とかミヨルニルを投げないで……

## 主人公とスレイルの設定（前書き）

タイトルのまんま主人公の設定です  
最近友人からps借用いました

友人との間柄は

私「青いお空がほしいのよ」

友人「飛ばしてごらん」

私と友人「「シャボン玉」」

こんな感じです

## 主人公とスレイルの設定

とりあえずf a t e風に

名：フェンリル

筋力：C +

耐久：C

対魔力：B

魔力：A -

俊敏：A + +

幸運：B +

氣配& a m p ; 殺氣遮断 A + +

文字通り氣配と殺氣を完全に消すスキル。俊敏と掛け合わせれば直感A以上あるもの以外太刀打ちできない。

家事A + +

家でやることはなんでもござれ、料理、掃除に洗濯に接客接待、ほとんどになんでもござれ

捕食A + +

相手を喰らい己の糧とするスキル。

概念も喰べることが出来るのだから正にチート。世界は私で回つて  
る。

もしf a t eの世界に行くとしたら……

クラス 食人鬼<sup>イタ</sup>

筋力 C

耐久 C

魔力 B +

対魔力 B -

俊敏 A ++

幸運 B

## クラススキル

捕食 A ++

ゲイ? ボルクなどの概念は真名解放がされていない状態ならば食べることができる。

無論「「」がここにない」という事実も喰べることが出来無い。

吸收 B +

喰らつたものを己が魔力に変換し、魔力を回復させる。マスターがいなくとも人や木等を週に三、四回喰べれば現界しつづけることができる。

保有スキル

家事 A ++

家事だつたらなんでもできる。田指せメイド長。

召喚 C +

己の伴侶たる雷狼を召喚。ただし召喚した後戦闘が終わればイチャつぐ。

宝具

「食い散らかす食欲の罪」<sup>グラトード</sup> A ++

対人宝具

見た目は巨大な鎧だが、殴る所に狼を真正面から見た顔の絵柄がついており、殴つた相手のステータスのどれか一つをワンランク減らし、自分に吸收する。だが筋力Cのため当たる確率は低い。

「神喰らう悪食の狼王」<sup>フエノリル</sup> A ++

対人宝具

相手の足元から巨大な狼の頭を召喚し、対象を喰べる宝具。

対象の神性が高い程威力が上がる。

直感 B 以上、もしくは幸運 A 以上ないと避けることは難しい。

「闇よりの<sup>あまのいわど</sup>侵食」<sup>エイノリル</sup> C

対人宝具

自分の体を隠し、気配察知に長けたものでさえ認識できなくさせる。

次はスレイル

名前 スレイル

筋力 D

魔力 E

筋力 D

魔力 D

対魔力 C

俊敏 B

幸運 B

耐久 D

武具は無く雷を纏い素手で戦う……予定。

多分対戦時は雷を放出して自分の身を守るぐらいしかできないかと

名 スレイル（成長（予定））

筋力 A

耐久 B

対魔力 C +

俊敏 A

幸運 B

こんな感じにする予定です。

因みにフェールの身長は163cm、幼スレイルは135cm。大人スレイルは195cm。

## 主人公とスレイルの設定（後書き）

……本文より二つちの方が読むのに時間がかかるような気がする……

## 第5話 戦の準備？（前書き）

文才なんていらない、画力なんていらないからやる気を……  
書き方ちよつと変わってしまいました

## 第5話 戦の準備？

紅き翼とHンカウントし同志を得たフェンリル、主人公の変態度はインフルエンザから複雑骨折並みの重傷に…………！！！

「私の変態度つてそこまで酷いの！？」

「何もないところで誰に叫んでるんですか同志FHンリル

「あ、ああ、なんでもないわ（作者、後でシバく）」

おおこわいこわい

「（もういいわ無視する）ところで、どこへ向かってるのかしら」「次の戦場じゃ、用意も出来たしの」

描写していませんがフェールとスレイルは同行することになつています。未熟者故書くことができませんでした。

「ふーん、暴れるのかしら

「ざつと語つとそつだな」

やつとこを赤髪鳥頭が発言。影が薄いです

「なんか誰かに馬鹿にされた気がする……」

「わしは違うぞ」

「私も違う」

「私もです」

「俺も違うな

「俺もだ」

「ナギは馬のように速くて鹿のような強さがあるでしょ？」

「おう、ありがとよ…………って馬鹿にしてんじゃねーか！！！」

「あら、鳥頭なのによく氣づいたわね

「ウギ————！」

「猿みたこじやのわ

「猿だな

「猿ですね」

「俺はリーダーなの」…………〇一二

見事な〇＼＼です。無駄に土下座の真理を見抜き無駄に土下座の根源に至らぬとできないこの〇＼＼をナギがやるだと……………！？

「切、そろそろ行くかの」

「やつと暴れられるぜ」

ラカンさんその物騒な元気をどうにかしてください

フェール side

作者、書き方変えたわね。四苦八苦するでしょうけど。私には関係ないし

「それは酷いと思うのですく

今のは幻聴よ、私はなにも聞いていないわ。

さて、話を切り替えましょう。

今私達はグレートブリッジ……………だったかしら、その制圧。何人食べれるかしら、まだこの世界に来て人と食べていないし。魔力はどんな味がするのかしら……………

楽しみ

## 第5話 戦の準備？（後書き）

今回も短いのです。

神は言つてゐる、ここで終わる運命ではないと  
こんな更新ペース&文字量で大丈夫か？  
大丈夫じゃない問題だ

## 初めての喰人（食事）（前書き）

実を言うと原作一回も読んだことがないとです……クソッ、キヤラがわからない！

## 初めての喰人（食事）

フェール side

さあやつてきましたグレートブリッジ。つってもひつ戦鬪は始まつてるけど。

はーほんと紅き翼は化け物揃いね、ナギは雷の斧で敵をなぎ払うわラカンはラカンで千の顔を持つ英雄で戦艦落とすし……おいまて詠春、刀から雷飛ばすな。

この公式チート集団め……

さて、私も暴れ（食いちらかし）ますか

side out

表現するのが難しい殺氣、若しくは鬪氣そのようなものが帝国兵士にぶつかつた。

ただ兵士達が分かる」と、それは絶対的な捕食者がいるということ。誰かが音を出した。結果、その音を出したものは膝から下を残し消えた。否、喰われた。

一本の足から血の噴水があがる。しかしそこまで血の量は多くないのすぐに止んだ。硬直した時間が消えた。兵士達は犯人を探した。が、それは徒労と化した。一本だけ残つた足をひょいと掴み目の前の少女が喰べたのだ。嫌な音が響き渡る。一人、兵士が悲鳴を上げ逃げ出した。少女はそれを確認すると大地を七回蹴り、逃げた男を通せんぼし、血を顔中につけ笑顔でこう言った

「大魔王からは逃げられない！！！」

場の空気が凍つた

フェール side

うん、わかつてたんだこれを言つたら滑るつてでも言いたかつたんだよ！！

言いたいでしょ！？みんな言いたくなるよね！？

いいもん、いつか火よ灯れをして「いまのは燃える天空では

ない、火よ灯れじゃ」的な事言つてやる！！  
あ～もうヤケクソだ！！全部喰べてやる！！

side out

場が空気が凍り多少涙目になりながらうーうー唸つて此方を睨みつけるのは可愛らしいのだが先程の喰人（食事）でそれも恐怖に変わり、兵士達は身を引き締める。その数秒後、ハつ当たりのように少女が動き兵士達の肉をもぎ取ろうとする。当然飛びかかつてくる速さが普通ではない為兵士達には避けることは出来なかつた。一人、二人と仲間が葬られていく。先程まで居た者達はもう居ない。全て少女の胃袋の中に消えた。あの小柄な少女の体にどうやって入るのだろうか。命の奪い合いのさなか、一人の兵士は戦場に似合わない事を頭に浮かべる。その後一人の名も知らぬ兵士は意識を闇に呑みこまれた。

## 初めての喰人（食事）（後書き）

やつと食人鬼っぽいことだせた…………いやつふい  
ああ、もう眠い…………短い…………  
どうでもいいですけど胸揉んでも胸の細胞が死滅するだけで大きく  
はならないそうです

第7話 酢豚にパイナップルは邪道 （前書き）

外氣を取り込みそれをコントロール出来れば仙人になれるのかなあ

## 第7話 酢豚にパイナップルは邪道

### フェール side

グレートブリッジ奪還戦が終わって私達は紅き翼と別れた。決して（やべえ……流れ分かんねえ……）的な事でそうなったわけじゃないよ！？「ホン

前回はシリアスっぽいなにかだったのにもう「シリアス？なにそれおいしいの」状態じゃない……

（メタ発言は止めて欲しいと作者は思っちゃったりしちゃったり）なにも聞こえないわー（棒

さて、紅き翼（混沌組）から別れたのだし力の修行でもしましょう。場所は何処にしようかしら……

ついたー。やつてきました南の島あー。

スレイルが暑さでぐでーつてなつてる。ええいか弱いやつめ！！まあ暑さ以外にも原因があるのだけれど。にしても暑い。修でもいるのか……？伏線みたいにちょっとだけスレイルに名前付ける時ナン？テスカトトリと暑さ勝負してたし。

もつと熱くなれよ！もうちょつと頑張つてみろよ！ショウウグ ギザミもトルルルルルつて頑張つてるじゃないか！！

あれトウルルルルルつてなるのかしら……

### side out

色々と危険な電波を受けつつも修行の準備をするフェンリル。スレイルは水辺の木陰でお昼寝中です。そして準備（というかダイオラマ魔法球の設定）を終えたフェンリルが夢の中の住人になっているスレイルを起こす。当人は完全に目が覚めていないようだ。目をこすりながら不安定な歩き方をしている。因みにフェンリルは自分の「老い」という概念を食べた為不老になつている。

スレイルの「老い」はまだ食べていない。20才位まで成長させるそうだ。

修行風景等は作者の実力不足で省かせてもらいます。

約200年をダイオラマ「魔法球」で過ごした。スレイルは青年になり、自身の能力の雷を使う体術を編み出した。千の雷クラスの電撃を一回のパンチで放つのはチートだと思つ。

一方フェンリルは喰らう能力でどうこうものまで食べることができるのかを調べた。

“ダイオラマ魔法球がない”という事実をも喰えるありとあらゆるもの食べる能力。もしや神をも喰えるのではないか？と思いつ自分を転生させてくれた神っぽいにかに気合いで通信し、喰つてもいい神がないかと相談したところ笑われてしまつた。

やつぱり駄目かと思つたが、意外と腐つた神がいるらしくそいつらをマンボウに転生させる前にお前のところによこすからそれを喰えと神っぽいにかが言つたのでそんな神界で大丈夫か？と言つてみたら一番いい神を頼む。とノリノリで返してくれた。

案外お茶目である。名前を聞いていなかつたのでそいや名前何よ、と言つたら急に黙つてしまい通信なのに遠くから神っぽいにかの悲鳴と若い女性の怪しげな笑い声が聞こえたので即急に通信を切つた。本当に妻いたんだなと思つたフェンリルだつた。

数分して一人の男が魔法球の中に転送されてきた。相手の放つ神性（微弱）で一発で神だと分かつた。スレイルを安全な場所に非難させて、神（マンボウに転生する予定）と向かいあつた。逃げちゃ駄目だ逃げちゃ駄目だ逃げちゃ駄目だ……とか言つてゐる。なんでその名台詞知つてゐるのさ。転生したら知らない水中だ……とか言いそ�である。何時まで経つても動かないでの遠隔捕食で腕を喰つてみると悲鳴を上げた。フェンリルの顔を見てみるとどうやら味はあまり美味しいようだ。顔をしかめている。

sideファンリル

神は美味しくて神力を吸収出来るのかなーと思つていた時代が私にもありました。神力の吸収は出来るけどなんのこの味、例えるなら小松菜を塩茹でした後ホイップクリームをかけたような味。胸焼

けしそうな甘さのあとにつがい味が口いっぱいに広がる……うええ。美味しくないようでも神力確保の為頑張るか。つておりょ、「なんで腕が再生しないんだ、3rdインパクト後のリリン化したシンジの能力を手に入れたのに……！？」とか言つてる。はは～ん、こいつ転生者か。だからあのセリフ知つているし神性（作者は赤い海になつた後シンジ君は神に最も近い動物になつたと思つています）持つてゐるのか。まあいいやさつさと喰つちゃおう。いただきm「こい！！エヴァ初号機！！」おおう某汎用人型決戦兵器ではないですか。うわー勝ち誇つた顔でドヤ顔して見下してゐる。その足喰つてやろうか。

神 マンボウ  
s i d e

俺はトラックに轢き殺され死んだ。でも運命ではまだ死ぬ時期じゃなかつたらしく気の弱そうな女神が謝つてきた。

ふざけんじやねえよ！！と言いたかつたがチート能力をくれて転生させてくれるらしいから許してやつた。

そうして俺は転生したがやりすぎたらしい。洗脳してたつた518人のハーレムを作つただけじゃねえか！！罰で殺され記憶以外能力を封印され、人間以外の動物に転生させられるらしい。

でも目の前の女に勝つたらお咎めなしだ  
「こい！！エヴァ初号機！！」

第7話 酢豚にパイナップルは邪道（後書き）

頑張ったよ……私頑張ったよ……長文書けたよ……

## 第8話 画面テープは剥がさない（前書き）

しゃ「ひーはあつと「第三魔法（キシュア？ゼルレッチ）」の使い手

## 第8話両面テープは剥ぎにくい

某紫の巨人の肩の上で神は勝利を確信していた  
マンボウ

なんとも醜いものである。しかしこれは人間ならば当前の歪みである。何の力も無い人間が急に強大な力を持つことができれば殆どの人間はこうなるだろう。

力に溺れ、本来止め具となる理性も腐り本能的な行動にでるだろう。人間というものは時には美しいものを生み出し、時には醜いものを生み出すのだろう。

そういう考へてゐる内に

一行け！エヴァンゲリオン！！！！！」

フェール side

あれなんで落ちないのかしら……

あれが、コバンザメの様に引っ付いてるのか。  
って、おおう いきなりの攻撃ですか。そこ、下品な笑い声上げる  
なキメH。あと本当になんで落ちないんだよ！？

初号機はもらえないかしらね？

神 s i d e マンボウ S i d e o u t

あつはつはつは……やつぱり俺は最強なんだ！……誰も止められねえぞ……

俺の夢は世界中の女（BBA、不細工を除く）でハーレムを作る！邪魔なんかされてたまるか！！まだニコポやナデポで500人ぐらいしか落とせてねえのに！！

ん？なんだこいつもいい女じやねえか、こいつもハーレムの一員にして一日中まうすか……

side out

フエール Side

なんかうざつたく感じたからもう喰つた。あれ途中からやらしい目で見てきたし。ま、もうどうでもいいや。神通力手に入れたり、……んん？なんか体に異物が入ってきたというか出来たというか……あ！多分S2機関だよこれ！！でもコアは要らないなあ……弱点増えるし、でも初号機のコアは第14使徒の攻撃に耐えてたし、強度は使徒それなのかしら。

さて、前世の父親のような現実的（リアル五十路）な頭皮のような現実逃避はここまでにして……何故初号機が残っているのかしら……自律行動ができるように事実を喰つてみましょ。

初号機 Side

私は自我がありながらも自分で動けない、いや動くことができない兵器。造った奴に何故感情を持たせたかを問いたい。兵器には感情は不要だ、逆に邪魔だ。

主とは認めたくない命令、だが体が勝手に動く。  
ごめんなさい。一人叩き潰した。ごめんなさい。

三人足で擦り潰した。ごめんなさいごめんなさいごめんなさい。五  
十人を腕を振つた風圧で吹き飛ばして障害物にぶつけて殺した。ご  
めんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいご  
めんなさいごめんなさいごめんなさい。

もう一回ござりだ。

助けて……誰が助けてよ

たか主の命令は続く  
たか殺戮は続く

それが続きを わか よう やく 終わ た。 終わ らせ てくれた のは 目の前  
( といつ ても 60m ある ので 足元 と 言つ た 方が いいが ) の 女性。  
この 恩、 返し ても 返し きれ ない。 私は この 人に 忠誠 を 誓おう。 そし  
て 主に 仇な す もの を 全力 で 蹤散 う そ う。 だから 私は 人 に なろ う。 大  
きく て は 邪魔 に なつ て しま う。

Siedent

FILE SIDE

い、今起こつたことをありのままに話すぜ！初号機が残つていたと思つたら美少女になつた。な、何を言つてるk（ゝy）うん、美少女だ。たわわに実つたお乳がなんとも……じゅるりおおつといかんいかん

十一

ん……？主つて私？なにゆえー？

「はい、そうです。主は私をあのゲスから救つてくれました。故に

私のマスターです。

「え、ああ。や、う。

「もしかして……迷惑ですか？」

グハアッ！！上田遣い + 淀田だと……！？恐ろしい娘！

迷惑じゃなしね！むしNバッサ一イー！」

ぐおおお眩しいー！色んな意味で汚れた私にはその笑顔は眩し過ぎ

るシ  
—  
!

## 第8話 囲碁テープは剥がしてい（後書き）

あれ……初号機も喰べさせんつもりだつたけど……よし、性的な意味で食べさせよう（笑）  
といつか初号機が『テイルムッシュさん並みの忠誠騎士に……

## 第9話 モゲロ（前書き）

スレイル君が某赤い弓兵っぽくなってしまった件

## 第9話 モゲロ

スレイル side

ふむ、これはなかなかイイ。慌てふためく我が妻に紫色のチャイナ服を着た少女が迫っている。絵的にまだ見ていたいが空氣にされるのは嫌だからな。話の輪に入らせてもらおう。

「フェール」

何時も通りの声で愛している妻に声をかける

「どうしたの？」

フェールから何時も通りの返事がくる。

「家族が増えるのだ。俺も話に加わったほうがいいだろ？？」

俺達は夫婦だろう？、というとフェールが顔を赤くした。

クク、何度も行為をしているのにその辺はまだ初心の様だ。そういうところが本当に愛らしい。

「主、この人は……？」

ああ、自己紹介をしていなかつた

「俺は「名前はスレイル、私の夫。戦闘能力は高いわ。」……むうフェールを見るとしてやつたりという顔だ。やれやれ、お返しされてしまつたか

「初めてまして、エヴァ初号機です。」

「あ、その名前なんだけど変えない？」

「ふむ、俺も同感だ。華麗である君に無骨な名前は似合わなそうだ

……ッ

何故かフェールが睨みつけてくる。何故だ。む、そっぽを向いてしまつた。

「フェール」

「つーんだ」

「フェール？」

「つーん」

「…………」

これは一筋縄ではいかんらしい。

やれやれ、無視される悲しみを知つてもらいたいものだ。

「フェール」

「つー…………んむうー！？」

フェールの脣を塞ぎ、舌を入れて口の中をかき回す  
数十秒たち、頃にフェールの目はトロンとしている。

「スレイルウ…………」

フェールから求める声がするが背に回していた手を戻し、フェール  
から離れる。

「…………え？」

フェールは裏切られたような顔をした。

俺もこのまま続きをしたいがあの子が赤面でぶつ倒れているからな。  
それに無視された分の仕返しだしな。だが……

「さて、この子を部屋のベッドに寝かせてこよう。お前や続きはそ  
の後だ。」

どうやら俺は甘いりしい

「…………うん！」

side out

そのあとエヴァ初号機がいたしていようと現れ、またぶつ倒れ  
たとかなんとか

## 第9話 モグロ（後書き）

スレイルモグロ

フェールがスレイルの前では子供化している件  
あとなんでこうなった

## 第10話 豆腐の角で頭を打つて死ね（前書き）

友人亀「高度10,000mから豆腐を頭に落とすか、秒速340kmの速さで豆腐を頭にぶつけると殺せるらしい」

私「なんという。だが高度10,000mから頭狙うとかどこのゴルゴ。あと秒速340kmだと醤油ではなく時をかける豆腐になるぞ」

友人亀「そんな映画あつたな前」

それでは第10話です。

## 第10話 豆腐の角で頭を打つて死ね

フェール side

「麻帆良に行くわよ！」

「は？」

ふつふーん、驚いてるわね。あ、そういうH・ヴァ初号機だけ名前決定したわ。

エヴァ・T・アドバルト

TはトライデントのTらしい。鋼鉄のガールフレンドだと……！？因みに私たちの名字もアドバルトに決定した。

よくよく考えればこの約200年間名字がなかつた。

まあ……それに気づかないぐらいの200年だからナニをしていたかは察してほしい。

「行くのは構わんが 別に、両面宿讐を倒してもかまわんのだろ？」「

スレイル、最近アーチャー化が進んでいるわよ。

「何故今行くのかね？原作開始の時でいいだろ？」「

ハイ、ここでお気づきの方はいらっしゃいますでしょーが！実はスレイルとライ（エヴァだと闇の福音とかぶるため）でも親しくないとその名前言つたらATフィールドでつくつた疑似ロンギヌスの槍でアツーされる）は原作を知っているのですよ前田さん！（前田さん誰やねん

気合でこっちより時間が進んでる転生前の俺がいない平行世界に行くゲートを作つてきたのだよ私は！つまりゅことか漫画とかいろいろ別荘に詰まっているのだ！生きる世界変わつてもやつぱりこつは思う。ニ 次 元 万 歳！

閑話休題

「別に造物主戦が面倒トカジヤアリマセンヨ？」「

「ならばそのかわいらしき顔をこちらに向けるフェール」

「御主君……」

聞こえぬ！聞こえぬわあ！

あとなぜかライが御主君つて言つてくる。  
何故？

「それとー麻帆良で美味しい焼きそばがあるらしいよー」

焼きそはがね？確かに原作開始の2003年前のけんたいならあるから、それが何故ぞ？

あるかせしれんか何故だ?」

「「？」

見事に声が重なつたわね

「神が店を開いているのか？なんのためにかね？」

それは私が知りたいわよ。なんでも『お前の近くで起こるトラブルを酒の肴にするためだ。別によからう?』なんとも外道である。そのうち雑種!とか言いそうだ。だから気合いで覚えた『こちら側に開く扉を開けると足の小指にクリーンヒットする呪い』をかけた私は正常だろう

「知らないわよ。どうせ今頃『ありとあらゆるところを走る程度の能力』を付与したオートバイに自身の能力である『ありとあらゆるもの回す程度の能力』を使い車輪を回して海でも走ってるんじゃないかしら？」

~~~~~

北太平洋

められない！――――――――――

この日、軽い津波が起きたという

~~~~~

……今度奥さんの部下（抑止の守護者）に田那さんの分霊体が地球でいろいろやらかしてると言つといづ

あ、そうやつ。神っぽい何かの奥さんはガイアらしい。

英靈エミヤに会つてみたいと言つてみたら「いいわよ～」と軽ツ！？

それに元々神っぽい何かは能力を持つた人間で奥さんが神（仮）（めんどういので略）に恋をして付き合い始め結婚のところで婚姻届と世界と契約する書類にすり替えられたらしい。奥さんH……

奥さん曰く「永遠を生きる私と結婚するならこれぐらいいいでしょう？」

このセリフを聞いて男前だと思つた私は悪くない  
で守護者になりいろいろやつてるとユグドラシルの管理人になつて  
いたらしい。どんだけだよ

奥さんもこれは予想外だつたらしく「私この地位まで来るのは47億年かかつたのに……。」と言つていた。

神（仮）はナギ達並みのチートらしい

それが分霊体とはいえ麻帆良にいるのだ、いろいろとやばいらしい。

危険度は制約付でも造物主2人分。どんだけチートなのよ！

神（仮）の名前については聞き忘れた

閑話休題。

「あと前に電話した時に『焼きそばお』ってやるから麻帆良来い。  
飛ばした時間軸わからんかつたから1000年ぐらい待つてるんだ  
が。』だつて」

私には1000年待つなんてできない。無限の時を生きているあいつ等は例外だと思つけど

「ふむ、待ち人を待たせるのはたしかにいいことはいえんな。だが、それならば先も言つたように原作開始あたりでいいのでは？」

うー……

「わかつた……麻帆良に行くのはネギが来る数年前にする……」

「よし、ならば戦争に参加しよう。ここで200年でも魔法球の外では約200時間。十日程しかたっていない。まだ連合と帝国の戦争は続いているだろう。最近戦つていなくてな。体がつづくする」

こ、この戦闘狂は……

「そうですね、ここで戦争に介入すれば御主君の名も世に広がりますね……」

ライおまえもか！？

「いぐぞフュール、胃の調子は十分か？」

じゅうぶんじやない！

## 第10話 豆腐の角で頭を打つて死ね（後書き）

「疑似ロンギヌスの槍」

魔法や気を無効化。ハマノツルギの槍版と考えればOK  
しかも着弾時、ATフィールドで圧縮していた魔力を一気に開放するので第五次聖杯戦争のアーチャーのように「壊れた幻想」<sup>ブローカンファンタズム</sup>のようなことがおきるのでエヴァの筋力と合わせると「投槍爆雷」<sup>ロンギヌス・エクスプロージョン</sup>ができるしかも追尾性があるので高確率で当たるというおまけつき

## ライの設定（前書き）

テストです。期末テストです。これで行ける高校決まりますぎやあ  
あああああ  
みんな！オラに集中力を分けてくれ！！

## ライの設定

名前：エヴァ トライテント ? T ? アドベルト

筋力：E

魔力：B

耐久：C

俊敏：D

幸運：C

（紫巨人化）

筋力：EX

魔力：B

耐久：A → EX

俊敏：EX -

幸運：C

（保有技能）  
肉体変化

ATフィールドで自身のカタチを変える

しかし時々誤作動して元の姿に戻ってしまう

153cmがいきなり約60mになるので注意

ATフィールド

自身の心の壁を形にしたもの  
形をイメージで変える事が可能  
主に刀や弓、槍を作成する。銃は複雑で無理。つかATフィールドを  
撃ち出す方が速い

耐魔力：B

大魔法以外の魔術や魔法をレジストする。  
千の雷クラスでやつと火傷というチート。

S2 機関：B +

半永久的にエネルギーを出し続ける。

だが1秒間に一定の量しか出せないため一定量を超えるエネルギーは出すことができない。（といつても偽ロンギヌスを八本位同時に作らなければそんなことはあこらない。）

元の姿に戻つたら大半EXとかチート過ぎる。俊敏は普通に走つても数百m一瞬で行くし……  
こいつ一人だけで世界征服出来るだろもう……  
イスカンダル「ガタツ」  
およびじゅねーよ

## ライの設定（後書き）

テストだから金曜日まで更新出来ません  
でも逃避したくて投稿するかもしません。  
うぐああああああああああああああああああ

# 第11話 俺達の本編はこれからだ!!（前書き）

「遂に魔王の部屋に着いたぞ……」「

「なんて威圧感だ……扉」しでも感じられるぞ……

「ああ、そうござる。」  
「へえ、ひひこてんじやねによ。」  
「俺達ならいけむぞ！」

「よし、みんなこいつーー！」

「來たか人間よ

「魔王！！俺は……いや俺達はお前を倒して世界を平和にするーー！」

立和……が立和といふのは昔めは昔を和氣にかおるるのか……

「 なに! ?

# 魔王様は魔王城地下の儀式の間

「の料<sup>リ</sup>二段<sup>トモ</sup>正<sup>マサ</sup>三<sup>ミ</sup>、二<sup>ニ</sup>二<sup>ツ</sup>、一<sup>一</sup>、二<sup>二</sup>、一<sup>一</sup>、二<sup>二</sup>、一<sup>一</sup>」

魔王「いやいやまあやー！」

それでは第11話です

## 第1-1話 僕達の本編はこれからだーー！

魔法球から外へ出て来てフェール達がとつた行動は紅き翼との合流だつた。

「む……こっちだな」

スレイルの無駄に無駄を重ねた無駄に高性能な強者レーダーで案外早く見つかりそうである。

時々レーダーに別の強者がかかり、戦いに行こうとするスレイルを必死に止めたが結局レーダーにかかった人と戦うことになった。だがレーダーにかかった者が変な口調の鉢巻きつけたワカメだつたり、ピンクポニテのニー<sup>ト</sup>侍だつたり、熱くなつてテニスプレイヤーだつたり、顔面のデカいオカマだつたりと散々であった。

「本当に今度は紅き翼<sup>アラルフラ</sup>なのよね」

「ああ、間違いない。俺が幼いころに感じた気と魔力の波長だ」あんなちつさい時に感じたものによく覚えているものだ。私にやインパクトないと覚えてられん

インパクトあつても200年も前のこと覚えていられん  
「御主君、顔色が悪いようですが……大丈夫ですか？」  
と主を心配そうに見つめるライ

「え、ああ、大丈夫よ、問題無い」

一番いい装備がでそうな会話をスレイルが戦闘狂<sup>バトルジヤンキー</sup>レーダーで探ししている間、暇潰しにとだべつていた

「あと472mだ」

無駄に高性能である

紅き翼 side

「何じやーこれが噂の紅き翼の秘密基地か！  
どんなところかと思えば……掘立小屋ではないか！！！」

「俺等逃亡者に何期待してんだ？このジャリはよ

「なんだ貴様無礼であろうーー！」

「へつへん！生憎、ヘラス皇族にや貸しあつても借りはないんでね！」

「むう～」

「あの子供が第三皇女なんですか……」  
タカミチ、皇族のイメージが壊れていつてるからといってそれはないだろう

「さて姫さん。こつからが大変だぜ。連合にも、帝国にも……あんたの国にも味方はいねえ」

ナギが話始める

「やはりそうか……我が騎士よ」

「その“騎士”って何だよ、姫さん！？」

クラスで言つたら俺は魔法使いだぜ？」

「もう連合の兵ではないのじやろ？ならば主は最早私のものじやな……」

「（…………）れ遠まわしに告白よね？同志アル）」

「（…………まあ、そうなりますね同志フェンリル）」

「（何故誰も突っ込まないのだ（のでしじうか）…………）」「三名増えているがアルビレオとゼクト、ガトウしか気づかず話は進んでいく。（気づいたのに突っ込みを入れないのはツッコむタイミングを逃したからである。）のよなことではお笑い界では生きていけんぞ

「連合に帝国…………そして、我がオステイア。世界全てが我らの敵という訳じやな。じゃが…………主と主の“紅き翼”は無敵なのじやろ？」

世界全てが敵……良いではないか。

こちらの兵はたつたの7人……だが最強の7人じや。ならば我等が世界を救おう。

「我が騎士ナギよ、我が盾となり剣となれ」

「（こつこつちに気づくのかしら……）」

「（わあ……ですがゼクトやガトウとクルト君は気づいているよ」

です）」

「へつ、だから俺は魔法使いだつーのに…………。やれやれ相  
変わらずおつかねえ姫さんだぜ」

呆れた様にナギは喋つてゐるがそれでもアリカの前に跪く。そして、  
アリカもナギの肩に剣を置くようにして掲げ、騎士契約の様な形を  
とる。

「いいぜ。俺の杖と翼、あんたに預けよ」  
なぎは高らかと宣言した

「して……そこでアルビレオと話しているものとその隣にいる二人  
は何者じゃ？完全なる世界の手先か？」

「――（やつと全員気付いた……）」「――

## 第11話 僕達の本編はこれからだ！！（後書き）

テストおわったぜeeeeehaaaaa！  
やつとここまで書けたよう。

長い…… 小説というものを筈の成長速度同様に甘く見ていた  
前書きはただのおふざけです

第1-2話 熱々のお米にキンキンに冷えた牛乳を混ぜたものを食べ（前書き）

サブタイトルのやつやつたのを吐く

## 第1-2話 熱々のお米にキンキンに冷えた牛乳を混ぜたものを食べろ

フェール side

「不気味なくらい静かだな……」

「舐めてんだろ。悪の組織なんてそんなもんだ」

色々キンクリで飛んだけど、今私達は墓守り人の宮殿にいるわ  
てゆーかアヌビスの宮殿つてなによ

墓守りが宮殿持ちつて……

「ナギ殿！混成部隊配置完了しました！」

おおう、大分考えてた

でもやっぱり…………連合の軍がないわね。大半は帝国とアリアドネ  
一だし…………

「連合の説得は間に合いませんでした……」

「おう。あんたらが外の召喚魔や自動人形をおさえてくれればその  
間に俺達が突入出来る。頼んだぜ」

「は、はい……そつそれで…………ナギ殿、サツ、サインを頂け  
ないでしううか」

ほほう、あのこはナギっちょのファンクラブメンバーと見た

「ああ。それくらいなら構わないぜ」

さらさら～っと書くナギ。おいまて、なんでそんなに手慣れてるんだ  
「ナギ、もう時間がない。早くしないと世界を無に返す魔法が発動  
してしまう」

「じゃ、俺達は突入するがフェンリル達も一緒に来るのか？」

「いいえ、外で悪魔狩りをするわ。それにあなたは最強の魔法使い  
だから勝つのでしょうか？ 食人鬼である私が行つてもかなわないわよ  
「！？…………そうだな！ よっしゃあ！ さつさと完全なる世界の奴  
等を倒して帰つてくるぜ！？」

「はいはい、いつてらっしゃい」

気合いを入れ直したナギは振り返つて後ろで静かに待つている紅き

翼に号令をかけた

「紅き翼…………出撃！」

「「「「応！…」」」」

side out

紅き翼が墓守り人の宮殿へと突入した数十分後に

「よし、やるわよ」

何を?とは聞くことはできないだろ?。

何せいま言葉を発した女性には殺氣を悪魔に向けながらしたなめずりをしているのだ

しかしそれは下品ではなく、それが妖艶さを醸しだしている。男性兵士は前かがみものである

「うん、せっかく道具を作ったのだしここで使わなきゃどっこで使えつていうのよ」

そうしてどこからか(?????)取り出した鎧。つまりハンマーなのだがその大きさが異常である。鎧の持つ場所以外の分が縦1mもあるのだ。そして殴るところには狼の絵。それを女性はふりかぶり、悪魔の群に飛び込んだ

「――――ツ!?

普通の人間には自殺行為と見えるだろ?。

だが色々と普通ではない雷狼と紫の巨人は

「ふむ、どうやら先をこされたようだぞライ」

「私もご主君をと暴れたいです。ああ、命令があれば元の姿に戻れるのに……」

「君は元の姿である紫の鬼神に戻らなくてもファイールドをつかえば一発だらう?それにフェールを踏み潰してしまつかもしれんぞ?」「む……流石にご主君を踏みつけるのは気が引けますね」

“早く暴れたい”と呑氣?に会話していた

「お、お二人はフェンリル殿が心配ではないのですか!?」

「ああ」

「ええ」

「「フェールなら大丈夫だろう（ご主君なら」」  
その瞬間フェンリルが飛び込んだ場所を中心に悪魔達が爆ぜた。

## 第1-2話 熱々のお米にキンキンに冷えた牛乳を混ぜたものを食べり（後書き）

「うぐお……集中力が……切れた

今日はもうつかない……

また短くなつてすみません……

## 第1-3話 ハンバーグの肉まんにとどけたチーズのせたら異様に美味しい（前書き）

「くそつ…………なんて強さ……流石魔王」

「人間に負ける程年老いていないよ。あと私は中ボスだつてば。魔王様んとこはよ行つてやれ。多分バイトのシフト終わつて今頃ファミレスでお子様ランチ食べてる筈だから」

「勇者はまだかなあ…………」もぐもぐ  
ヒヤツハーア！！！13話だア！

## 第13話 ハンマーの肉まんにとりたるチーズのせたら異様に美味しい

（墓守りの宮殿内）

「ふふ、君達は僕が眞の黒幕だと思っていたのか」  
「力、カカカカ、カカロットオ！」

＼デーヌン！／

はい……ごめんなさいほんとはこっちです

「ふふ、君達は僕が眞の黒幕だと思っていたのかい？」  
「な……っ！？みんなよける！…」

「いかん！アイギス！」

ドゴオオオオオ…

「ぐあつ！」

「ラカン！くそつ！…」

「待てナギ！奴はヤベエ！！別格だ！！死ぬぞ！！」

「へつなーに言つてんだか。俺はサウザントマスターだぜ？必ず勝つ！！」

「やれやれ、ワシも行くぞナギ。この中で一番ワシが軽傷じや」

「つわけアル、傷治してくれ」

「あなたは……いえ、わかりました。」

「ん……大分楽になつたな。んじゃ、ちょっとくら行つてくれる」

「行くぞナギ」

「応！…」

「ナギイイイー！ゼクトオオオ！…」

それからどーした

「クハハ、私を倒すか人間！…だがゆめゆめ忘れるな！私の語る「永遠」こそが、全ての魂を救いえる唯一の次善解だと…」

「人間を舐めんじゃねえええ！」

それからそれかどーした

「人間は度し難い、我が一千六百年の絶望を知れ……」



## 第1-3話 パソコンの本まんまとわざのチーズのせたら異様に美味しい（後書き）

ぐふつ……私のライフポイント（集中力）はもうゼロ。ネタが思  
いつかないね

ちゃおちやおーみたいになつてゐけどもうダメだア……おしまいだ  
ア……

一人用のポッドでかア？

うん、なに言つてんだろ

高校、大丈夫かな……

あ、pvが2万を超えました。ありがとうございます。

この小説、改めて見るともう1~2ヶ月も続いていて、飽き症の私  
がよくじこまで書けたなあ、と思つ今日この頃です

## 第14話 紫鬼神（シキガニ）（前書き）

モンハンズでやつと毛虫龍倒せました。  
3rdは持つてません……

## 第14話 紫鬼神（シキガミ）

ライ side

卸主君卸主君卸主君卸主君卸主君卸主君卸主君  
卸主君卸主君卸主君卸主君卸主君卸主君卸主君  
卸主君卸主君卸主君卸主君卸主君卸主君卸主君  
卸主君卸主君卸主君卸主君卸主君卸主君卸主君

ハツ！私は何を……

え、えーと今はですね、ケルベラス渓谷にいます。あ、はい当たり  
です。アリカ様処刑の日です。なんでこんなに時間がたっているか  
というと……お、王こ……う？（キングクリムゾンです）があつ  
たらしいです！

か、閑話休題

そして今アリカ様救出の為紅き翼の皆さんと配置についています。  
私は巨人モード（といつても本来の姿はこれですが）で渓谷の底で  
待機、もしもという時にATフィールドでナギ様とアリカ様をきや  
つちします。卸主君は崖の上でスレイル殿と待機中です。暴れられ  
るのはまだかまだかとうずうずしているのがATフィールドで伝わ  
ってきます。

私も暴れたいです。

side out

ラカン side

あつちい～しかも窮屈過ぎるだろコレ～

早く録画止めてくれ～

「……歩け、罪人」

「触るな下郎、自分で行く」

勇ましいねえ～お、落ちた

ナギ、お姫様はまかしたぞ。

さて、俺は……

「録つたか？録つたな。よし、ここから先はなかつたことになる」

「な、何者だ貴様！」

「ふん！」

暑苦しい鎧をよつやく脱げたぜ

「お、お前は！…千の刃のジャック・ラカン…何故にここに…」

「筋肉、ダルマだけじゃないわよ？」

おいおい、そりやひでーよ

「ひつ…?ま、人喰らい（マン・イーター）…!…!…」

「あら、どうしたのかしら。そんなに怯えた顔で…」

フェンリルよお…そりや自分が怖いものが目の前にいたら怯える  
だろ

「何か言つたかしら？」

フェンリル、笑顔だが目え笑つてねえぜ。

「いんや、なんも言つてねーよ」

「そう、ならいいわ」

おーこわ

「遊んでいないでさつさと片付けるぞ」

「へーへー、わかつたよ詠春」

side out

ライ side

ああ、まだですかねお一人方は…  
あ、来ました…よつと!

「な、ナギ！どうして主ぬしが地獄にいるのじゃ…」

「へつ、好きな女を地獄になんか行かすかよ…!…」

「なつ…」

もう降ろしていいですかね？なんだか苛立つてきました。魔

獸の餌になつてしまいなさい

「つておわつ…?鬼神兵…?」

「あ、私はライですよナギ殿」

「「誰…?」」

「魔獣の餌になつてしまえ————！」

アリカ様意外と悲鳴が可愛らしいですね

side out

## 第1-4話 紫鬼神（シキガミ）（後書き）

「ライヒ……………名前すら覚えられてないとは……  
うぐふー原作開始書けるのいつになるだろ  
……………タイトル忘れてました

第1-5話 神狼と雷狼と紫鬼神と（前書き）

たまーにはまともなサブタイ

## 第15話 神狼と雷狼と紫鬼神と

京都  
関西呪術協会

宴のお~~~~!!

卷之三

「え、何で、いつになつてしまつたんだ……」

詠春さんが绝望したように言います。後で育毛剤や胃薬でもあげま

初、回憶といひの名の詠春さんの現実逃避をしましょ／＼

海藻もとい回想

卷之三

お詫びの言葉を述べた後、ハーバードにて開催された開拓者会で、要会開いたいかしら。

「へ？別に構いませんが…………何故ですか？」

「廿四

フエシリル殿な

フヨンリル殿ならい酒を扱っている店を知っている筈……何かが起こつてしまふのか？

一別に他意は無いわ、なんとなくよ」

卷之三

~~~~~

「ここが有名な清水寺だ……」

「これが清水寺の飛び降りるあれか！…意外と低き一な…！」  
「おっしゃああああ！！！飛び降りるぜええええ！！！！！」

「ナギ！ ラカン！ 飛び降りようとするな！ ！」

ああ、何故私がガイドセードキをしなければならないのだろう……それで毛断らないのが私が。はあ……

「芋焼酎」と書かれた看板

「スレイル、酒はまだだ。さつさ二本呑んだだろ?」

「そしてショタつこもダメです。浮気はいけませんよ」

「何を言つ!-ショタコソはYES!-ロリータ、ノータッチ!の精神

「「ゆう二休用」」、ドナ

「ハヤシ-ん」（ - ？ - ）

認識障害をやつしていくがよかつた……これがなかつたら他の人に迷惑になつてしまふところだつた

イロモノ集団移動中？？？？？

「宴よお~~~~~!!」

「一九三〇年九月三十日」

電波は戻る……

寒逃避

「長！！大変です！！両面宿羅が復活しましたーー！」

「恐らくは！現在スクナは本庄にて進行中でな」「それで？」「おひが過激派か？」

なごむことのできるところへ、歸れん船ひてこぬのよ

「皆さん！速く非口「その必要はないわよ」えー？」

「両面宿題？ 倒しがいいがありそうだぜ！！」

「鬼神だろーがぶつ飛ばしてやるぜーー！」

「ふむ、神に私の雷がどこまで効くか試してみないな」と同じ呪符として構成して下さい」

もう勝手にしてください。

「ねえ？」

side out

フェール side

「千の雷！！！」

「ラカン？インパクトオオ！！！」

「心？ロンギヌス！！！」

「神食らう悪食の王！！！」

「雷閃爪！」

「真？雷鳴剣！！！」

「これ、オーバーキル過ぎじゃないかしら。神食らう悪食の王は対神用に作った技だし、そしてライは紫鬼神になつてゐるし、スレイルは雷狼になつてゐる。私もザ・ビーストしようかしら、でもあれやつたら色々ハイになつちゃうのよね。

……悩んでばつかじやあれだし私もなるか。

side out

「ウオオオオオオオオオ！」

大きく、響く声が本山を満たす。

大鬼神は声のした方に視線を向ける。

向けた先には雷をだす蒼狼とは別の狼がいた。

話の腰を蹴り折つてしまつが神話ではフェンリルは神ではないが神族だ。

何故その様な話をしたかと云ふと、大鬼神が見た狼は神性を放つていたからである。

その神々しい姿は神族であることを証明している。

…… 実際本人にはなつた自覚は砂鉄一粒もないが……

……

大鬼神はそれ（？）は自分を殺すことができるものだと本能で理解した。ぶつちやけ今のスクナは fate のバーサーカーでいうと狂化 B

つまり理性は雀の涙程しかない。

…… 千草が「やつてまえバーサーカー！」って言つてゐる姿が浮か

んだ。反省も後悔も公開もしない

#### 閑話休題

大鬼神は動く、己の敵を排除するため。神狼は走る、獲物を捕らえるため。

大鬼神が神狼に拳を当てようとする。しかしその攻撃は届かずに空を打ち抜く。

その攻撃で出来た隙に神狼は己の牙で大鬼神の腹に噛みつき喰い千切る。

大鬼神は怯み、足をつく。その瞬間、大鬼神は再び封印された。

## 第15話 神狼と雷狼と紫鬼神と（後書き）

今日はタツチペンが進みました。

……d sからだからタツチペンでいいのです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9595x/>

---

食人鬼の魔法生活

2011年12月17日18時49分発行